



4年 中村亜紗美さん

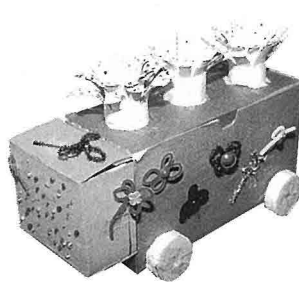


『絵になった文字たち』

※サインするつもりで、名前を絵にしてみました。くねくねとおもしろくなりました。



1年 小倉 綾峰さん



『ゆかいなはなやさん』

※空き箱で作ったよ。モールやビーズでいっぱい飾りをつけたよ。すてきでしょ。

あつまれ みんなの力作

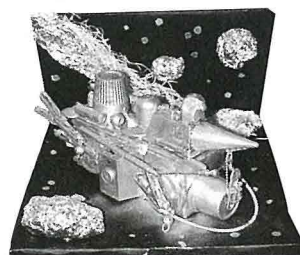


『まつぼっくり ふくろう』

※まつぼっくりを一枚、一枚はるのが大変でした。



2年 菊地 哲也くん



『ぼくのうちゅうせん』

※せんたくばさみをボンダでつけるとき、くろうしました。かっこよかったです。

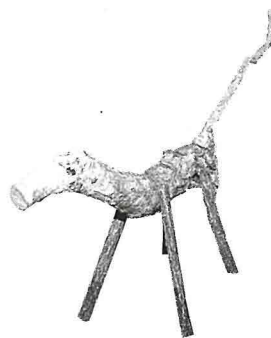


6年 實川龍之介くん



『野 球』

※ぼくがバットイング練習をしているところを、紙ねん土で作りました。



『しっぽが長い馬』



3年 畔蒜佳菜恵さん

※馬を作りたかったので、馬の顔にた木が見つかってよかったです。

ひかり俳壇



越川せつ子(篠本) 月祀る大正琴の音も添えて

月の光は人々にやすらぎを与える。十五夜の月光の下に弾く大正琴も澄んで美しい

川島 通則(二又) 名月や語らずわかる妻といて

幾多の困難に耐えて来たであろうが、今では以心伝心で通じ合う中年の夫婦像である

布施喜美雄(二又) 秋日傘成らぬ想いもたたみ込む

作者の心情が中七下五に集約された情緒ある作品であるが、男性の作であることが惜しい

大谷 武彦(木戸) 名月や一期一会の友集い

土屋 義昭(虫生) 終電に座席を選び今日の月

大木 静水(篠本) 九天の隈なく澄みて今日の月

椎名 静子(二又) 老夫婦朝餉に香る新茗荷

伊藤 定男(尾垂) 名月や一物も無き腹の中

評者 椎名しげる

評者吟 良夜なり妻と余生を語り会う